

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	池田 誠
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	池田 誠

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	兼六園周辺文化の森活活性化の推進	兼六園周辺文化施設入館者数	人	653,000 (H25)	673,840 (H24)	712,928 (H25)	A
施策2	個性的な文化創造社会の形成	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H25)	12,679 (H24)	11,609 (H25)	B
施策3	音楽文化の創造・発信・交流の促進	音楽堂入場者数	人	252,000 (H25)	265,158 (H24)	250,272 (H25)	B
施策4	伝統文化の継承・発展と文化芸術に親しむ機会の充実	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	108,000 (H25)	108,960 (H24)	111,144 (H25)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価							
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性					
						(年度)	(年度)											
施策1	課題	兼六園周辺文化施設の活性化	再 兼六園周辺文化施設入館者数	人	653,000 (H25)	673,840 (H24)	712,928 (H25)	兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	8,400	8,400	A	拡大					
								前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業費	一般県民	639	594	A	継続					
								歴史博物館移動展費	一般県民	3,000	2,250	A	継続					
								美術館入館者数	人	450,000 (H25)	408,642 (H24)	511,440 (H25)	美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	31,528	31,140	A	継続
施策2	課題	表現・鑑賞機会の充実	再 芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H25)	12,679 (H24)	11,609 (H25)	芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,231	4,165	B	継続					
								再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	8,400	8,400	A	拡大					
								いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	3,500	2,994	B	継続					
								ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数	団体	45 (H25)	44 (H23)	45 (H25)	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	54,000	54,000	B	継続
施策3	課題1	音楽文化の創造・発信	再 音楽堂入場者数	人	252,000 (H25)	265,158 (H24)	250,272 (H25)	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,847	15,847	B	継続					
								地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,700	10,700	B	継続					
								再 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	54,000	54,000	B	継続					
								ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数	人	100,000 (H25)	104,771 (H24)	103,322 (H25)	ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	43,000	43,000	A	継続
施策4	課題2	音楽文化を担う人材の育成	再 いしかわミュージックアカデミー参加者数	人	4,000 (H25)	4,984 (H24)	3,480 (H25)	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	国内外石予音楽家、一般県民	14,420	14,420	B	継続					
								再 音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	108,000 (H25)	108,960 (H24)	111,144 (H25)	伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	3,000	3,000	A	継続
								再 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	3,500	2,994	B	継続					
								再 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	54,000	54,000	B	継続					
施策4		伝統文化の継承と発展	再 音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	108,000 (H25)	108,960 (H24)	111,144 (H25)	再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	8,400	8,400	A	拡大					
								再 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	43,000	43,000	A	継続					
								再 芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,231	4,165	B	継続					
								再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	8,400	8,400	A	拡大					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 兼六園周辺文化施設活性化事業費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	専門員 山若 真由美		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的
 兼六園周辺文化の森の賑わいを創出するため、各文化施設、関係機関等との連携により、活性化推進事業を実施する。

- 事業の概要**
- 1 兼六園周辺文化の森ミュージアムウィークの開催(9月29日～10月6日)
 各文化施設が連携し文化芸術イベントや協賛行事を開催
 (各文化施設、本多の森公園)
 - 2 文化の森スタンプラリーの開催
 県及び金沢市の文化施設を対象
 - 3 金沢芸妓の舞の実施
 文化施設鑑賞パスポート付き:能楽堂別館
 - 4 文化の森マップ、イベントガイドの発行
 年2回作成
 - 5 いしかわの伝統文化魅力発信事業の実施
 兼六園・金沢城公園の四季折々のイベント等と連携した催しを文化施設にて開催
 年3回(6月、11月、2月):能楽堂別館、四高、美術館

以上、交付先:兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会

- 6 「冬の観能の夕べ」の開催(2月、能楽堂)
 若手能楽師による能楽公演の実施

 交付先:いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会

- 7 石川県・金沢市文化施設共通鑑賞パスポートの期間限定販売
 ミュージアムウィーク事業の一環として実施し、各施設の周遊促進を図る。
 対象施設:県3施設(美術館、四高記念館、伝統産業工芸館)
 市16施設(中村記念美術館、能楽美術館、鈴木大拙館など)
 販売価格:500円
 有効期間:2日間
 販売期間:10月(1ヶ月間)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進					評価	A
課題	兼六園周辺文化施設の活性化						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	653,000	757,255	671,194	642,716	673,840	712,928	
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実					評価	A
課題	伝統文化の継承と発展						
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	109,000	101,824	116,571	102,617	108,960	111,144	
事業費							
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
事業費	予算	7,800	7,400	8,000	9,500	8,400	
	決算	7,800	7,400	5,432	9,500	8,400	
一般	予算	7,800	7,400	8,000	9,500	8,400	
	決算	7,800	7,400	5,432	9,500	8,400	
財源	決算	7,800	7,400	5,432	9,500	8,400	
事業費累計		42,600	50,000	55,432	64,932	73,332	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	歴史博物館がリニューアル工事のため休館中にも関わらず、多彩な文化イベントや新規事業の実施による集客効果もあり、ミュージアムウィークはほぼ例年並みの来場者数となった。各施設主催の展示等に加え、当事業によりミュージアムウィークなどのイベントを開催することにより、文化の森の賑わい創出や各館への集客に有効であった。 ミュージアムウィーク来場者数 H25:48,826人 ※これまでの平均来場者数 48,178人					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	兼六園・金沢城公園のイベントと連携しミュージアムウィーク等既存事業を拡充するとともに、新幹線開業時期にもイベントを集中させることにより、兼六園周辺文化の森の一層の賑わい創出を図り、施設の活性化につなげる。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	-	作 組 織	県立美術館
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主幹 守友 満
						者 電話番号	076 - 231 - 7580 内線 6510

事業の背景・目的

美術館リニューアルオープンに併せ「尊経閣文庫分館」が開設されたことを受け、前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品のすばらしさを県民に紹介するためのPR事業を積極的に展開し、「尊経閣文庫分館」の周知と観覧者増を図る。

事業の概要

1 文化講座の開催

前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品収集に力を注いだ加賀藩歴代藩主の姿を、前田家に関わる人及び他の大名家との比較を通して、深めていく連続講座として開催する。

開催回数	年3回				
講座概要	第1回 芳春院まつと尊経閣文庫	講師	富山高等専門学校教授 瀬戸 薫氏	受講者数	135名
	第2回 利常と交流のあった文化人たち	講師	石川郷土史学会 幹事 横山 方子氏	受講者数	195名
	第3回 富姫の八条宮家興入れと前田利常	講師	金沢学院大学教授 見瀬 和雄氏	受講者数	210名

講 師	歴史家、郷土史家等の著名人				
会 場	石川県立美術館ホール				
対 象 者	一 般				
定 員	各回200人				
特 典	講座参加者は、講座当日のコレクション展観覧料は無料				

2 尊経閣文庫のパンフレット作成

前田育徳会尊経閣文庫の文化財等所蔵品のすばらしさを県民に紹介するため、PR用パンフレットを作成する。

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	A
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	653,000	757,255	671,194	642,716	673,840	712,928

事業費						
(単位:千円)		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	2,500	1,500	1,000	800	639
	決算	2,244	1,006	950	749	594
一般	予算	2,500	1,500	1,000	800	639
財源	決算	2,244	1,006	950	749	594
事業費累計		2,500	4,000	5,000	5,800	6,439

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	前田育徳会や尊経閣文庫の優れた文化財などを県民に知ってもらい講座の開催及びPR用のパンフレットを作成し、公民館や大学等教育機関にも幅広く配布することにより美術館の魅力アップに貢献した。年3回の講座の受講者数は延べ540人と前年の受講者数を130人余り上回る結果となった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	尊経閣文庫分館の魅力を高めることは美術館の集客アップにもつながることから、今後も加賀藩の歴史と豊かな文化を伝える講座の開催やPR活動の充実に努めることにより、尊経閣文庫分館を鑑賞する機会を広げていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館資料展示費(移動展費)	事業開始年度	S 62	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作 組 織	歴史博物館
成 職・氏名	総務課主幹 西村 学
者 電話番号	076 - 262 - 3236 内線 6511

事業の背景・目的
 平成25年度はリニューアル工事閉館のため、毎年開催している「特別展」に代わり、「移動展」を実施する。
 (1) リニューアル休館にあたり、県民サービス機関・教育機関・観光施設としての博物館の機能低下を補う。
 (2) 普段、地理的な事情から触れる機会の少ない加賀・能登地区で、名品・優品を紹介し、歴史博物館への関心を促したい。
 (3) リニューアルに向けた情報を分かりやすく提示し、広報宣伝にも努める。

事業の概要

(1) 場所と期間
 ① 加賀: 小松市立博物館 平成25年7月20日(土)～8月25日(日)
 ② 能登: 石川県七尾美術館 平成25年9月21日(土)～10月27日(日)
 ③ 金沢: 石川四高記念文化交流館 平成25年11月30日(土)～12月23日(祝・月)

(2) 展示内容
 ① タイトル: 「大名行列がやってきた！～優品にみる加賀藩～」
 近世資料の名品・優品を中心に、各地区に関連した地域色のある資料を展示する。
 ② 主な展示品:
 「加賀(かが)藩(はん)大名(だいみょう)行列(ぎょうれつ)図(ず)屏風(びょうぶ)」(昭和初期 1940年頃)
 「白糸(しろいと)威(おどし)二枚(にまい)胴(どう)具足(ぐそく)」(江戸時代 17～18世紀)
 「加州(かしゅう)金平(かなひら)鉾山(ぼりやま)図(ず)」(県指定有形文化財) (江戸時代 1788年)
 など約40点
 ※四高記念館の場合は、「モダン金沢と民衆文化」をタイトルに、大正昭和初期の演劇・映画関係のポスター、チラシ、台本、プロマイドなどを展示予定。

(3) 関連企画
 ① 特別講演会 加賀・能登の2回を対象に、加賀藩の歴史と文化について、講演会を実施する。
 ② ギャラリートーク 当館学芸員が出張して、展示解説を行う。
 ③ ワークショップ 甲冑・お姫様衣装の試着体験、からくり人形の実演等を行う。(加賀・能登)
 ④ リニューアルの広報活動 広報パネルやCG映像等でPR活動を実施する。

これまでの見直し状況
 毎年新たなテーマを企画設定して事業を実施

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進	評価	A			
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	653,000	757,255	671,194	642,716	673,840	712,928
事業費						
	(単位: 千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	18,465	14,393	5,568	6,057	3,000
	決算	16,432	16,353	5,011	6,054	2,250
一般	予算	3,256	7,316	1,569	2,527	3,000
	決算	1,191	11,278	1,356	2,524	2,250
財源	決算	1,191	11,278	1,356	2,524	2,250
事業費累計		167,889	184,242	189,253	195,307	197,557
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		A	①小松市立博物館では、「大名行列がやってきた！～優品にみる加賀藩～」のタイトルで左記32日間開催し、901人の入館者があった。②の石川県七尾美術館では同タイトルで同じく32日間、入館者は1,849人であった。また、③の石川四高記念文化交流会館では、「モダン金沢と映画文化」のタイトルで、24日間で525人の入館者があった。いずれの会場においても、リニューアルのチラシやリニューアル後のイメージ映像を放映し、展示品はもとより、リニューアルのPRの機会として実施できた。			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	平成26年度においても、羽咋市、加賀市等で開催し、引き続き本館のPRに努め、平成27年春のリニューアル・オープン後の入館者数増加に努めることとしたい。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度 S58	事業終了予定年度	作 組 織 美術館
	根拠法令		職・氏名 主幹 守友 満
	計画等		電話番号 076 - 231 - 7580 内線 6510

事業の背景・目的
 美術に対する理解を深めるため、特定のテーマにもとづく内外の作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。

事業の概要

- 1 「国宝 薬師寺展」
 - ①会期 平成25年4月26日～6月23日 59日間
 - ②展示内容

薬師寺東塔大修理・復興及び白鳳伽藍再建10周年記念、北國新聞社創刊120周年記念及び石川県立美術館開館30周年記念として開催する。薬師寺は平成10年にユネスコ世界遺産に登録された「古都奈良の文化財」の主要寺院であり、日本を代表する古寺に伝わる貴重な文化財を一堂に展示する。主な展示作品は国宝「聖観世音菩薩立像」、国宝「吉祥天女像」、国宝「慈恩大師像」など国宝6件を含む薬師寺の至宝44件を展示する。石川県立美術館、北國新聞社、薬師寺の3者による実行委員会方式による展覧会開催は初めての試みとなる。

- 2 「俵屋宗達と琳派展」
 - ①会期 平成25年9月14日～10月14日 31日間
 - ②展示内容

俵屋宗達の後継者俵屋宗雪が加賀藩の御用を務めたことから、本県には宗達の流れを汲む宗雪や喜多川相説及びその工房の作品が数多く伝来し、大正3年には「金沢宗達会」が設立されるなど当地の文化・美意識に大きな影響を与えている。当美術館が平成25年に開館30周年を迎えるにあたり、石川県、金沢という視点から宗達・宗雪・尾形光琳などの名作を展示、日本美の精華と言われる琳派芸術の神髄を再認識する展覧会である。主な展示作品は俵屋宗達作の国宝「蓮池水禽図」、重文「西行法師行状絵詞」、「舞楽図」、尾形光琳作の重文「風神雷神図」など約60点を展示する。

- 3 「石川県立美術館名作の森展」
 - ①会期 平成25年12月21日～平成26年2月11日 47日間
 - ②展示内容

本県は、江戸時代から加賀藩前田家の保護育成政策により、文化の華が開き、その伝統が今日まで継続されている。古美術の歴史的な名作が伝承し、人間国宝、芸術院会員に認定される作家も多く、美術工芸分野において水準の高い地域として全国に知られている。当館はその伝統的な芸術的個性を活かした地方色豊かな美術館として親しまれ、同時に地域文化の集積を目指して、作品の収集を積極的に行っていることから全国の収集家から優れた作品の寄託を数多く受けている。本展は、開館30周年を迎えるにあたり、当館を代表する秀作群と寄託作品を展示し、新幹線開業を控えてその魅力を全国に発信することを目的に開催する。主な展示作品は野々村仁清作国宝「色絵雉香炉」、重文「色絵雌雉香炉」、重文「色絵梅花図平水指」など約100点を展示する。

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	A
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	450,000	427,822	390,711	360,740	408,642	511,440

事業費						
(単位:千円)		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	30,096	17,076	20,660	20,189	31,528
	決算	21,423	16,556	14,277	20,189	31,140
一般財源	予算	10,951	6,276	7,336	8,182	6,144
	決算	△7,962	5,737	9,274	8,035	4,073
事業費累計		77,197	93,753	108,030	128,219	159,359

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	日本美術の流れの上で評価される内外の美術品及び石川県に係る優れた美術品や貴重な文化財を鑑賞できる機会を提供することは、県民に芸術・文化の素晴らしさを伝えるとともに豊かな心を育むうえでも有意義なことである。 H25美術館入館者目標 450,000人 実績 511,440人 入館者数が増となったのは「国宝薬師寺展」の開催が主な要因と考えられる。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することにより、美術館のより一層の入館者増を目指す。 また、学芸員による展示解説の充実にも努め、県民が親しみを持って美術館として魅力を高めていくとともに、郷土の優れた美術品を後世に伝え続けるべく、その保存にも万全を期したい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川四高記念文化交流館事業費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度		作 組 織	石川四高記念文化交流館	
	根拠法令				成 職・氏名	課長 吉田 裕之	
	・計画等				者 電話番号	076 - 262 - 5464	

事業の背景・目的

石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々にご利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

事業の概要

1 石川四高記念館

- ・施設の概要
 - 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
 - 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置
- ・主な事業
 - 常設展示(4室)
 - 企画展の実施
 - レトロ展映画ポスター (4月～3月)
 - 小中学校絵画展
 - 三文豪館とのスタンプラリー
 - 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年8回) など

2 石川近代文学館

- ・施設の概要
 - 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(財団法人石川近代文学館へ事業を委託)
- ・主な事業
 - 常設展示(8室)
 - 企画展の実施
 - 「はじまりのものがたりー絵本の世界ー」 (4/13～8/18)
絵本原画等を一同に並べる「目に楽しい」企画展とし、幅広い年齢層が楽しめる展示とする。
 - 「生誕110年を超えて中野重治と出会う」 (9/14～11/24)
福井県生まれで、四高出身の中野重治の原稿を中心に展示する
 - 「西のぼる原画展ー初出 小説が生まれるところー (1/18～3/23)
ほとんどの小説は、新聞や雑誌に掲載されて発表される。これを「初出」と呼ぶ。今回は、この「初出」を小説の生まれたところと位置づけ、「初出」には、かかせない挿絵を西のぼる氏の原画ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の実施

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	A
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	石川四高記念文化交流館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	140,000	130,386	134,596	132,380	134,003	144,221

事業費						
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	15,742	15,476	15,322	15,754	15,289
	決算	15,571	14,946	14,640	15,511	15,133
一般	予算	12,694	12,852	12,354	12,354	12,455
	決算	13,509	12,408	12,353	12,851	13,128
事業費累計		31,142	46,088	60,728	76,239	91,372

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 左記の評価の理由 石川四高記念館においては、映画ポスター展などの企画展を実施した。多目的利用室においては大学のサテライト教室や文学講座に利用されているほか、四高出身者等による講座「フレッシュ新三々塾」や朗読会などを行い、全体の利用者も前年度を上回り、金沢中心部における賑わいの創出に貢献した。 H24実績:134,003人 H25実績:144,221人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 企画展の実施や機をとらえた常設展の展示替えなどを行い館の魅力を高めていくほか、県内外の中学校、旅行代理店、近隣の宿泊施設などにも積極的に広報活動を行い、館の存在をアピールしていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 芸術鑑賞推進事業費負担金	事業開始年度 S57	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名 主任主事 佐成 美穂
			者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的

子供たちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

- 事業の概要**
- 県内市町で下記の事業を実施する。
- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
(公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託 県内で5公演を実施
 - 2 スクールシアター(児童演劇公演)
(公社)日本児童青少年演劇協会に委託 県内で7公演を実施
 - 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (杵屋弥三辰社中、田中杉美勢社中、藤間勘菊社中)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内6公演を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	個性的な文化創造社会の形成					評価	B
課題	表現・鑑賞機会の充実						
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数					単位	人
目標値	現状値						
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	13,000	14,976	12,787	13,081	12,679	11,609	
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実					評価	A
課題	伝統文化の継承と発展						
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数					単位	人
目標値	現状値						
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	109,000	101,824	116,571	102,617	108,960	111,144	
事業費							
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
事業費	予算	5,741	4,521	4,521	4,231	4,231	
	決算	5,741	4,371	4,521	4,187	4,165	
一般	予算	5,741	4,521	4,521	4,231	4,231	
	決算	5,741	4,371	4,521	4,187	4,165	
事業費累計		276,260	280,631	285,152	289,339	293,504	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県内の子どもたちにオーケストラによる音楽や古典芸能など優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供をすることにより、豊かな感性と創造性を育むために寄与している。 H25鑑賞者数:7,584人(H24:8,444人)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本物の芸術に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 ただし、市町の財政状況等により開催希望数は減少しつつあり、今後は市町に積極的に開催希望数が増加するよう働きかけをしていく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課	
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主任主事 佐成 美穂	
					者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847	

事業の背景・目的

定期的に能楽を上演、鑑賞する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

事業の概要

内 容 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
日 時 平成25年7月6日～8月31日 毎週土曜日
 午後6時30分～午後8時30分
 全9回(特別公演1回、一般公演8回)
会 場 石川県立能楽堂
主 催 いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
対 象 一般
入場料 特別公演 3,000円/回
 一般公演 1,000円/回

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	個性的な文化創造社会の形成					評価	B
課題	表現・鑑賞機会の充実						
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数					単位	人
目標値	現状値						
平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
13,000	14,976	12,787	13,081	12,679	11,609		
施策	伝統文化、伝統工芸など文化資産の継承と発展					評価	B
課題	伝統文化の継承と発展						
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数					単位	人
目標値	現状値						
平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
109,000	101,824	116,571	102,617	108,960	111,144		
事業費							
(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
事業費	予算	4,200	4,200	4,200	4,200	3,500	
	決算	4,200	4,200	4,200	1,051	2,994	
一般	予算	4,200	4,200	4,200	4,200	3,500	
財源	決算	4,200	4,200	4,200	1,051	2,994	
事業費累計		60,300	64,500	68,700	69,751	72,745	

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供しているほか、公演回数を確保することにより能楽師の技術向上にも貢献している。 観能の夕べ入場者数 H25:2,441人(H24:2,259人) 能楽堂利用者数 H25:50,450人(H24:51,138人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 多くの県民に伝統芸能である能楽を気軽に親しんでもらい、本県能楽界の振興・発展につなげるために重要であることから、今後も「観能の夕べ」の上演を通じ、能楽に触れる機会が少ない県民層を掘り起こし、能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	事業開始年度 H10	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名 主事 小川 紘加 者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3848

事業の背景・目的

県民の文化理解の向上を促進するとともに、本県の質の高い文化を県の内外に発信する。これにより、県民が郷土に誇りを持ち、文化活動を通じ、活力ある地域づくりに自発的、積極的に参画する機運を醸成する。

- 事業の概要**
- 1 実施主体 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、(財)石川県芸術文化協会
 - 2 実施時期 平成25年9月29日(日)～11月24日(日)
 - 3 会 場 県下一円(公共ホール等)
 - 4 事業内容
 - (1) 芸術祭の中心となる音楽公演
 - (2) 本県ゆかりの芸能等公演
 - (3) 芸術文化団体による公演
 - (4) 協賛事業(芸術祭の趣旨に賛同する会期中の市町村、公共ホール自主事業・ただし財政的な支援はなし)
 - 5 参加団体数 45団体
 - 6 事業費 負担金54,000千円
(交付先:ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会)

施策・課題の状況							
施策	個性的な文化創造社会の形成					評価	B
課題	表現・鑑賞機会の充実						
指標	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数		単位	団体			
目標値	現状値						
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	45	43		44		45	
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実					評価	A
課題	伝統文化の継承と発展						
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数		単位	人			
目標値	現状値						
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	109,000	101,824	116,571	102,617	108,960	111,144	
事業費							
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
事業費	予算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000	
	決算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000	
一般	予算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000	
	決算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000	
財源	決算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000	
事業費累計		286,100	340,100	342,400	396,400	398,700	
評価							
	項目	評価					左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B					平成4年度の国民文化祭、平成7年度のいしかわ秋の芸術祭、平成9年度の文化庁芸術祭石川公演の成果を生かし、隔年ごとに県内各地で音楽公演などを実施することにより地域文化活動の活性化を図り、本県の文化の発展に寄与してきたところである。 また、開催毎に参加団体、事業数、ともに増加傾向にあり、本県の芸術文化を県内外に発信する事業として浸透している。
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続					本県では、2年に1度の総合的な文化芸術イベントとして、広く認知されているほか、本県の様々なジャンルの文化芸術団体の育成の場、発表の場として重要性が増していることから、今後も本県文化芸術の素晴らしさをアピールする場として、継続実施していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主任主事 競 荘 介
					者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大

- 2 事業内容
 - (1)コンサートホール(13事業)
 - ・ロシア サンクトペテルブルク交響楽団演奏会
 - ・ソフィアゾリスデン公演
 - ・クラシック・フォー・キッズ
 - ・ランチタイムコンサート 他
 - (2)邦楽ホール(10事業)
 - ・日本芸能の源流「祭」
 - ・雅楽
 - ・干支の芸能
 - ・文楽公演 他
 - (3)交流ホール(3事業)
 - ・午後の音楽散歩
 - ・室内楽コンサート
 - ・音楽堂アワー 他

計 26事業

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	B
課題	音楽文化の創造・発信					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	252,000	235,219	272,940	238,540	265,158	250,272

事業費						
(単位:千円)		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	30,700	25,420	21,196	17,817	15,847
	決算	30,700	25,420	21,196	17,817	15,847
一般	予算	15,700	10,420	21,196	17,817	15,847
	決算	15,700	10,420	21,196	17,817	15,847
事業費累計		504,600	530,020	551,216	569,033	584,880

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、石川の音楽文化の振興に大きな効果があった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、且つ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度 H2	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	

作 組 織	文化振興課
成 職・氏名	主任主事 競 荘 介
者 電 話 番 号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

- 事業の概要**
- ① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして三宅一徳、森山智宏にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。
 - ② 特別文化事業の開催
他のオーケストラとの共演やオペラなどの公演、芸術文化創作事業により作曲された新曲を披露する演奏会を開催する。
・オペラ「こうもり」
日時 平成26年2月15日 会場 県立音楽堂
 - ③ オーケストラ入門コンサートの開催
広く県民に、親しみやすいオーケストラを認識してもらうため、日頃よく耳にする身近な曲目を中心にコンサートを開催する。
日時:平成26年3月30日 会場 県立音楽堂
 - ④ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。
日時:平成25年8月27日、平成26年3月26日 会場:穴水町立穴水中学校
 - ⑤ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年～中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。
 - ⑥ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。
 - ⑦ 新人登竜門コンサートの開催
部門:管・打楽器、声楽 日時:平成25年4月24日 会場:県立音楽堂

これまでの見直し状況
※ H17年度に地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	B
課題	音楽文化の創造・発信					
指標	音楽堂入場者数				単位	人
目標値	現状値					
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	252,000	235,219	272,940	238,543	265,158	250,272

事業費						
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
一般財源	予算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
事業費累計		272,300	283,000	293,700	304,400	315,100

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続

事業の有効性: ジュニア・オーケストラおよびオーケストラ・アンサンブル金沢合唱団を、ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭やOEK定期公演へ出演出来るレベルにまで育成し、本県の音楽文化を担う次世代層のレベル向上に貢献するとともに、オーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による実践講習会等を通じて、音楽文化の普及にも貢献した。

今後の方向性: 県民がオーケストラへの親しみを深める事業や本県の音楽文化を担う次世代層の育成を図る事業は、本県の音楽文化の普及向上を図るうえで、大変重要な役割を担っているため、引き続き、各種事業に創意工夫を凝らしながら取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	事業開始年度 H20	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	

作	組	文化振興課
成	職・氏名	主事 杉本 重紀代
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的

フランス発祥のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」を、2008年から金沢で開催し、近年では、全国から10万人以上の来場者を集めるなど、石川の音楽文化の発信において着実な成果をあげてきている。2年後に迫った北陸新幹線金沢開業を見据えながら、今後も、世界的な音楽祭としてのブランド力を活かし、この音楽祭を発展させていく必要があり、6回目となる2013年は、金沢市中心部や加賀・能登地域での公演を通し、更なる交流人口の拡大や地域の活性化に貢献する。

- 事業の概要**
- 1 (1) 事業名:ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭2013
 - (2) 開催時期:平成25年4月27日(土)～5月4日(土・祝) 8日間
 - (3) 会場: 金沢市内(金沢駅周辺、金沢市中心部等)、加賀・能登地区、富山県内、福井県内
 - (4) 主催:ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭実行委員会
会長 前田 利祐 (第18代前田家当主)
 - (5) 内容:オーケストラ公演、合唱、室内楽公演、吹奏楽 ほか
約171公演(有料:約62公演、無料:約109公演)
 - (6) 主な出演者:【国内】
オーケストラ・アンサンブル金沢、北陸三県をはじめとする全国の演奏団体ほか
【国外】
フランス国立ロワール管弦楽団、パリ・コロヌピアノ四重奏団(フランス)、
パブロ・サインス・ビジェガス(スペイン)ほか
 - (7) 入場料:500円～2,500円
- 2 負担金額 43,000千円

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	B
課題	音楽文化の創造・発信					
	指標	ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	100,000	93,178	108,916	118,355	104,771	103,322
施策	伝統文化、伝統工芸など文化資産の継承と発展				評価	A
課題	伝統文化の継承と発展					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	109,000	101,824	116,571	102,617	108,960	111,144
事業費						
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	10,000	10,000	13,000	13,000	43,000
	決算	10,000	10,000	13,000	17,976	43,000
一般	予算	10,000	10,000	13,000	13,000	13,000
	決算	10,000	10,000	13,000	17,976	13,000
事業費累計		15,000	25,000	38,000	55,976	98,976

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	一流の演奏を低料金で提供し、0歳から入場できるコンサートを設けるなど、子どもから大人まで幅広く楽しめるクラシック音楽祭として、広く県内に周知され親しまれており、音楽ファンの拡大や石川からの音楽文化の発信だけでなく、交流人口の拡大や地域の賑わいの創出にも寄与している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本音楽祭は、世界的な音楽祭としてのブランド力と、誰もが足を運べる気軽さから、来場者数が10万人を超えるなど、ゴールデンウィークにおけるイベントとして定着しており、本県の音楽文化の県内外への発信や、交流人口の拡大に寄与するところが大きいと見られ、今後も継続開催する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組 織	文化振興課			
成	職・氏名	主事 杉本 亜紀代			
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850			

事業の背景・目的
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンをを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

事業の概要

- 1 事業名 2013いしかわミュージックアカデミー
- 2 期 間 平成25年8月16日(金)～25日(日) 10日間
- 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センターほか
- 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会
会 長 石川県知事 谷本正憲
- 5 内 容
 - (1) スクール部門
 - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
ヴァイオリン50人、チェロ18人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ 受講生発表会(マスタークラス)
 - (2) コンサート部門
 - ① ライジングスターコンサート: 過去のIMA音楽賞受賞者などの若手演奏家によるコンサート
 - ② IMA講師チェンバーコンサート: IMA講師とOEKメンバーの共演
 - ③ ミニコンサート : 受講生による演奏(病院、学校等)
 - (4) フェローシップ制度
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	B
課題	音楽文化を担う人材の育成					
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	4,000	3,512	3,938	4,598	4,984	3,480
事業費						
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	16,700	15,800	15,175	14,420	14,420
	決算	12,300	15,800	15,175	14,420	14,240
一般	予算	16,700	15,800	15,175	14,420	14,420
財源	決算	12,300	15,800	15,175	14,420	14,240
事業費累計		357,600	373,400	388,575	402,995	417,235
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。 また、アカデミー出身者で、世界を舞台に活躍している演奏家を招いてのコンサート開催や、受講生レッスンの一般公開、ミニコンサート開催など、県民が音楽に親しむ機会を幅広く提供している。 鑑賞者数 H25:3,372人、H24:4,878人				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	若手音楽家の育成事業である本事業では、近年、過去の受講生が講師となって石川に戻ったり、本県で開催されたコンサートに出演するなどの具体的な成果が表れているが、このような本事業の効果をさらに発揮するため、今後も長期的な視野に立ち事業を継続していく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 伝統芸能技能向上支援事業	事業開始年度	H25	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課	
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主任主事 佐成 美穂	
					者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847	

事業の背景・目的

県民や観光客が、藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力ともなっている金沢芸妓による質の高い伝統芸能にふれる機会の充実を図るとともに、芸の披露の場を創出することにより、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

○ 芸の発表の場の創出

- (1) 事業名
金沢芸妓の舞
- (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露
 - ① 会場
県立音楽堂邦楽ホール和室
 - ② 実施期間等
平成25年11月～平成26年3月の期間中 計18回(3茶屋街×6回)
 - ③ 開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④ 出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤ 対象者
県民や県外からの観光客(各回定員50名程度)

施策・課題の状況							
施策	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実					評価	A
課題	伝統文化の継承と発展						
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			単位	人	
	目標値	現状値					
	平成25年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	109,000	101,824	116,571	102,617	108,960	111,144	
事業費							
	(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
事業費	予算					3,000	
	決算					3,000	
一般	予算					3,000	
	決算					3,000	
事業費累計						3,000	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「金沢芸妓の舞」は、藩政期から受け継がれてきた金沢芸妓による質の高い伝統芸能にふれる機会を県民に提供しているほか、公演回数を確保することにより金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 金沢芸妓の舞入場者数 H25:870人 音楽堂邦楽ホール入場者数H25:60,694人(H24:57,822人)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	多くの県民に茶屋文化に気軽に親しんでもらい、芸妓文化を保存・継承し、さらに磨きをかけていくことは大変重要であることから、今後も「金沢芸妓の舞」の上演を通じ、芸妓文化の一層の伝承、発展を図っていく。					